

公立小中学校事務職員をめざす障がいのある方々へ

所属職・氏名	芽室町立上美生中学校 事務職員 佐々木 広和
採用年度 障がいの種別	平成 25 年度採用 肢体不自由

■ 事務職員の志望理由

大学卒業後は民間企業で働いていましたが、その間に事故により手に障がいが残り、障がい者手帳を取得しました。その後、自分の将来について色々と考えていた時に、障がい者を対象とした北海道の採用試験があることを知りました。

私が採用となった年度は、試験区分が1つで合格後に知事部局、教育委員会、警察本部のいずれかで採用されるというシステムでしたので、合格したとしてもどのような仕事に就くのかイメージするのが難しかったのですが、どの部署でも「人のためになる仕事」だと思いましたので、採用試験を受けることに決めました。

■ 印象に残っている仕事など

着任後すぐにとりかかる必要があった修学旅行の旅費事前請求が、今も印象に残っています。早々に道の旅費担当の方と書類の提出についてお話しする必要があり、その後も旅行代理店への書類送付のお願い、旅行内容について3学年の先生への確認、最後に旅費請求書を作成するためすぐ向かいにあった小学校の事務職員の方に指導していただきました。

年度当初の手続き関係の仕事もあったので本当に大変でしたが、4月最初の1週間という短い期間で多くの経験をすることができました。あれより大変な事は無いだろうと思えたので、その後は少し心にゆとりをもって物事に取り組むことができました。

■ 小中学校事務職員としてのやりがい

北海道の公立小中学校事務職員は、一部の大規模校等を除き学校に1人の配置となります。国や自治体、民間企業等ほとんどの組織は、人事関係や会計関係等々それぞれの部署に分かれています。公立小中学校事務職員は基本1人で対応することになります。そのため、その学校の事務については良くも悪くも自分次第となりますが、自分がやってみようと思ったことを形にすることができる仕事だと思います。

また、小中学校という学校現場での勤務となりますので、子供たちの成長を身近で感じることができます。事務職としては中々無い環境での仕事だと思いますし、その成長の一助を担っていることにはやりがいを感じると思います。

■ 今後、小中学校事務職員をめざす障がいのある方々へ

公立小中学校事務職員は基本的に学校に1人ということで、障がいの程度によっては、自分だけでは出来ない事もあるかもしれませんが、困ったときには諸先生方が助けてくださいます。事務に関する事についても他校の先輩事務職員がサポートしてくださいます。子供たちを育てる小中学校での仕事は、自分にとっても成長できるやりがいのある仕事だと思っていますので、是非チャレンジしてみてください。